

作品募集

応募締切 2022年6月30日(木)

主催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

協力：国際障害者交流センタービッグ・アイ

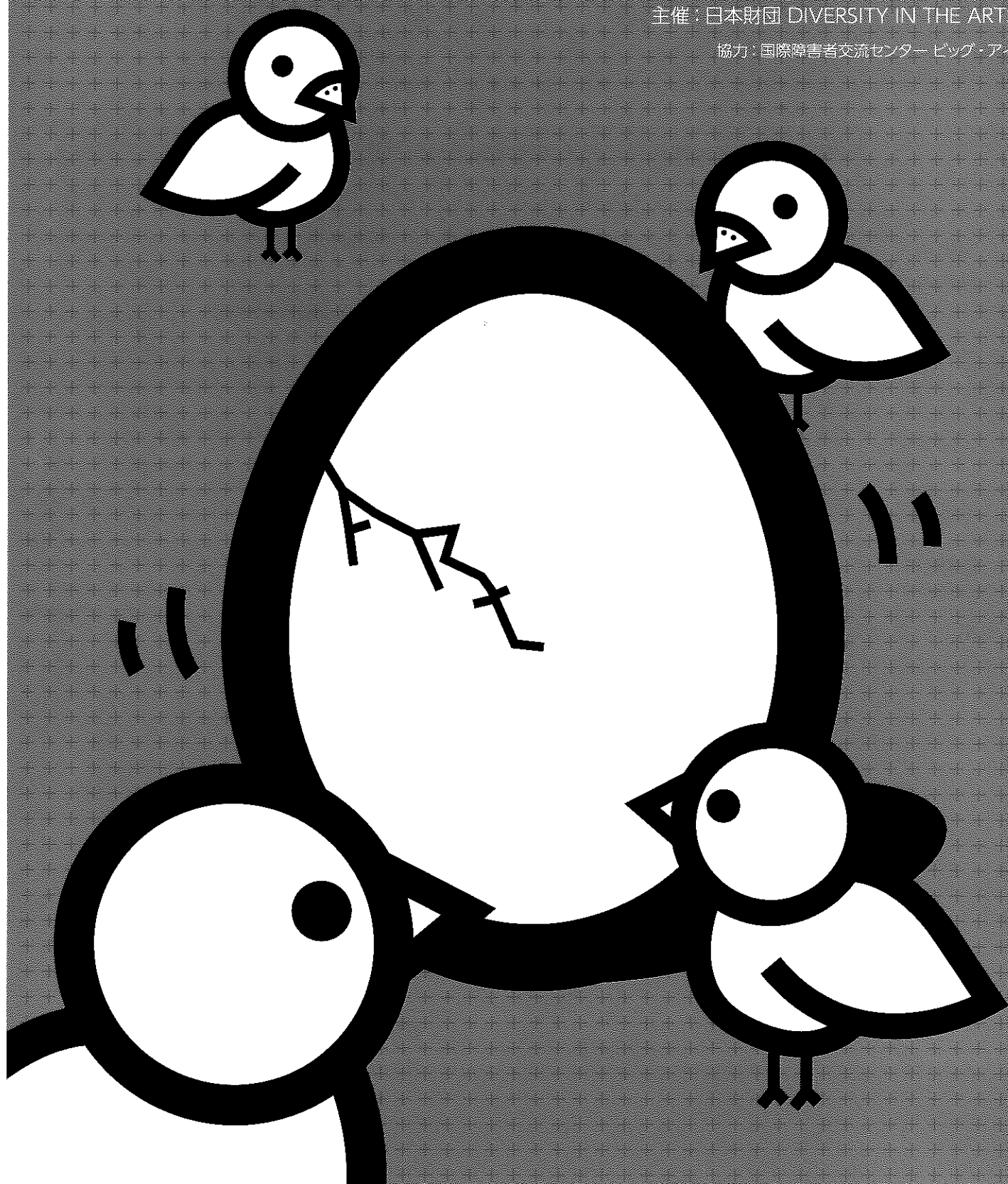




photo by KAMADO

秋元 雄史

AKIMOTO Yuji

練馬区立美術館 館長 /
東京藝術大学 名誉教授 /
金沢21世紀美術館 特任館長 /
国立台南芸術大学 栄誉教授

1955年生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。1991年～2006年ベネッセアートサイト直島のアートプロジェクト担当。2004年より地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティストディレクターを兼務。2007年4月～2017年3月金沢21世紀美術館館長。2015年4月～2021年3月東京藝術大学大学美術館館長・教授。2018年4月～練馬区立美術館館長。主なプロジェクト、展覧会は、「直島 家プロジェクト」、「地中美術館」、「スタンダード、直島スタンダード2」(直島)、「金沢アートプラットホーム2008」、「金沢・世界工芸トリエンナーレ」(金沢、台湾)、「工芸未来派」(金沢、ニューヨーク)、「ジャポニズム2018・井上有一展」(パリ、アルビ)、「あるがままのアート 人知れず表現し続ける者たち」展(東京)、「井上有一展」(北京、上海)等。2021年から、北陸三県を跨ぐ工芸祭「GO FOR KOGEI」、「クタニズム」をディレクション。



上田 バロン

UEDA Baron

FR/LAME MONGER 代表 /
イラストレーター

京都の西陣織職人の祖父の家系に生まれる。2000年よりデジタルツールを駆使した硬質なボードなラインを使い、ブランド化されたバロン目を持ったキャラクターイラストレーションを描く。フラットな表現でありながらアグレッシブな奥行きを感じる構図、そしてポップ&トゥーンスタイルが支持されている。広告や出版、ゲーム、メディアや巨大壁画など国内外で幅広く展開。幻冬舎「会話型心理ゲーム人狼」シリーズのキャラクターデザインがある。京都の茶室にシルクスクリーンプリントで仕上げた大作「Hachi」をはじめ、風神雷神図や黄金の舞妓図など日本の伝統技術と箔とデジタル表現を使った作品を生み出す。LIMITS世界大会2017で世界3位。玄光社より上田バロン初作品集『EYES』発売。



エドワード M. ゴメズ

Edward M. Gómez

brutjournal 創刊者 兼 編集長

アートジャーナリスト、評論家、キュレーター、グラフィックデザイナー。新しいアートマガジン『brutjournal』(www.brutjournal.com)の創刊者兼編集長で、アウトサイダー・アートマガジン『RAW VISION』の元主任編集者。『ニューヨーク・タイムズ』、『アート+オークション』、『アート&アンティーク』、『フォーク・アート・マガジン』、『ハイパーアレルジック』、『ブルックリン・レイル』、『ジャパントゥデイ』、『日経アジア』や、その他多くの出版物に記事、エッセイ、写真を提供している。ニューヨークと東京を拠点に活動中。スイス・ローザヌムのアール・ブリュット美術館諮問機関員。



中津川 浩章

NAKATSUGAWA Hiroaki

美術家 / アートディレクター

美術家としての制作活動と同時に、さまざまな分野で社会とアートの関係性を問い直す取り組みを行う。表現活動ワークショップ、バリアフリーアートスタジオ、美術史ワークショップ、講演等を通じて人間が表現することの意味、大切さを伝えている。アートスタジオオディレクション、展覧会企画・プロデュース、キュレーションを数多く手がけ、川崎市岡本太郎美術館「岡本太郎とアール・ブリュット」展キュレーター、「ビッグ・アイ アートプロジェクト」展覧会アートディレクター等々務める。(同)表現活動研究所ラスコー代表、一般社団法人Art InterMix代表、一般社団法人Get in touch理事、認定NPO法人アール・ヴィーヴル理事、NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事。



永野 一晃

NAGANO Ikko

写真家

公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員・京都読売写真クラブ代表・フォトコンテスト審査員等。1945年京都市生まれ。印刷会社企画部勤務を経てフリーの写真家。京都を中心に、骨董美術品・建築・料理・伝統工芸・人物ルポなどを撮影し出版・雑誌に発表している。



望月 虚舟

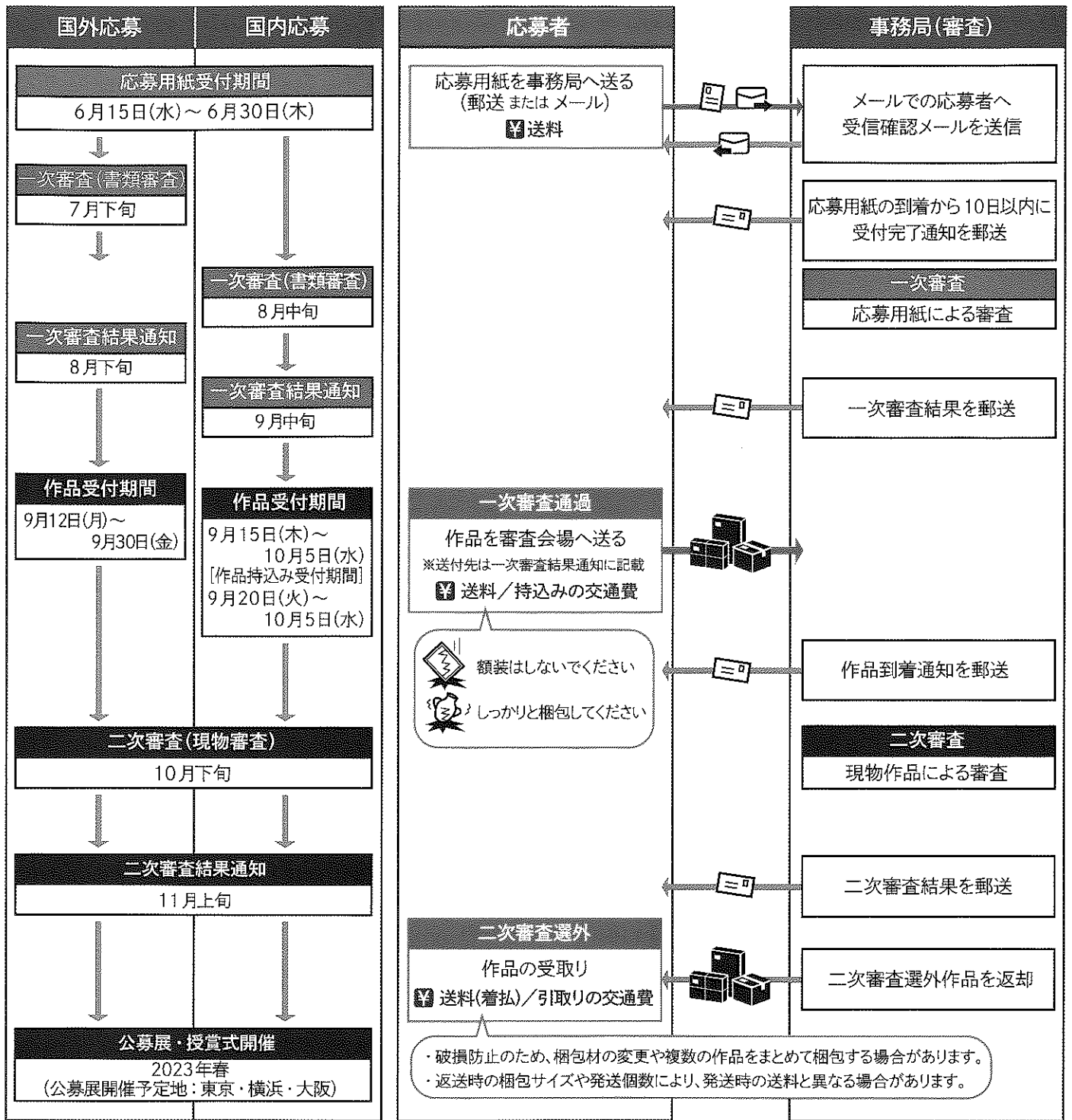
MOCHIZUKI Kyosho

書家

1949年、姫路市生まれ、新潟大学教育学部書道科卒業。現在姫路市立好古学園大学校講師、関西代表作家展陳列部長。毎日書道展運営委員、大賞選考委員を経て、現在に至る。近畿地区独立書人団近畿地区統括、姫路美術協会運営委員、毎日書道展大賞受賞、(公財)独立書人団会員賞受賞、虚舟書法会会長として活躍中、作品揮毫、作品解説を通じて、書の臨書感、創作感を講話、研究集録などを通じて、自論を展開している。著書『コツがわかれば誰でも書ける』など。

公募展の流れ

¥ は応募者負担



■入選作品の返却

佳作	2023年1月中旬
審査員賞・入賞	2023年5月

■入選特典

賞	図録への掲載・贈呈	公募展での作品展示	授賞式へのご招待
審査員賞(6点)・海外作品賞(1点)	●	●	●
入賞(43点)	●	●	—
佳作(50点)	●	—	—

※授賞式への交通費・宿泊費は主催者負担。 ※入選作品の返送料は主催者負担。

ご注意

一次審査を通過していない作品が届いた場合は、送料着払いで返送します。

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展とは

日本財団が進める「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダン ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ) プロジェクト」は、「障害者と芸術文化」の領域への支援を通して、誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指すプロジェクトです。

既成の形式にとらわれない多彩な展覧会などの企画、積極的かつ横断的な情報発信等、多様性の意義と価値を広く伝える様々な事業を実施しています。

公募展事業は、本プロジェクトの一環として実施する事業です。

アートを通じて障害のある人、ない人、全ての人々の交流を促し、感動やよろこびを共有しながら、障害のある人自身が自己の可能性を見いだせるよう、アート活動の機会を提供するとともに、才能あるアーティストの発掘や、障害のあるアーティストの活動の支援を行い、多様性の意義と価値を広く社会へ発信しています。

お問合せ／応募用紙送付先(郵送・メール)

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 係

[事務局] 特定非営利活動法人 CUE-Arts^{キューアーツ}

TEL 06-6940-6767 (土日祝を除く 10:00~17:00) FAX 06-6940-6768

郵送 〒530-0022 大阪府大阪市北区浪花町13-38 千代田ビル北館 4F-E

メール contest@diversity-in-the-arts.jp

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS ウェブサイト「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」
<https://www.diversity-in-the-arts.jp>